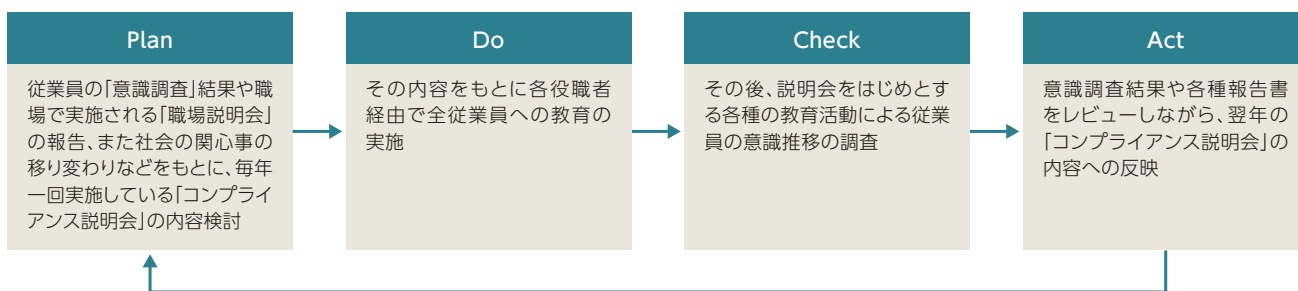


## 2.2 コンプライアンス&リスクマネジメント

### 2.2.1 基本的な考え方

富士フィルムグループでは、コンプライアンスを「法律に違反しないということだけでなく、常識や倫理に照らして正しい行動を行うこと」と定義しています。また、従業員のコンプライアンス意識の欠如が企業にとってのリスクにつながるため、コンプライアンスとリスクを表裏一体と捉え、コンプライアンスの意識を向上させるために以下の4つのステップでPDCA(Plan-Do-Check-Act)を回す仕組みを取り入れています。

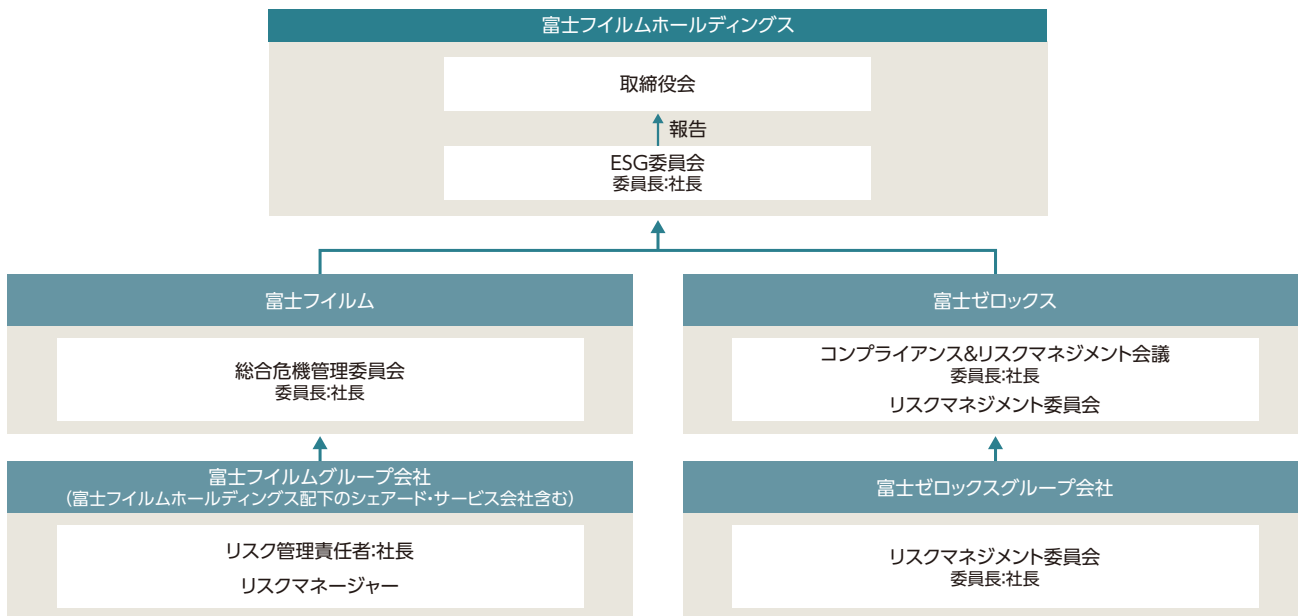


### 2.2.2 コンプライアンスとリスクマネジメントへの取り組み推移

1995-2005年	<p>各社における基盤整備・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社員行動規範の制定</li> <li>担当組織(委員会)の設置</li> <li>ヘルプライン・通報窓口の開設</li> <li>意識調査、説明会などによる従業員の啓発・教育、モニタリングの開始</li> </ul>
2006年-2008年	<p>富士フィルムグループとしての基盤整備・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>富士フィルムホールディングスのCSR委員会設置</li> <li>海外グループ会社への活動拡大</li> <li>グループとしての企業理念・企業行動憲章の改定、ビジョンの制定と啓発</li> </ul>
2009年-2013年	<p>新たな重点課題への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>腐敗防止規定導入</li> <li>大規模地震や富士山噴火の災害想定による全社リスク課題見直し</li> <li>反社会的勢力勢力廃除への体制強化</li> <li>情報セキュリティ規程、ガイドライン導入</li> </ul>
2014年-2016年	<p>SVP2016の目標達成に向けたさらなる活動推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>富士フィルムグループにおける重要リスクの見直し・明確化</li> <li>各種規程・ルールの周知徹底のための施策強化</li> </ul>
2017年-2019年	<p>富士フィルムグループとしてのさらなるガバナンス強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>不適切会計問題を教訓とした国内外全従業員のコンプライアンス教育と社長メッセージの伝達</li> <li>富士フィルムホールディングスへの直接通報可能な通報窓口の設置</li> <li>企業行動憲章・行動規範の改定</li> <li>富士フィルムホールディングスのESG委員会設置(CSR委員会からの改組)</li> </ul>

### 2.2.3 コンプライアンス&リスクマネジメント推進体制

富士フィルムグループリスク&コンプライアンスマネジメント体制図



2017年度に富士ゼロックスの子会社で発生した不適切会計問題を機に、リスクマネジメントにおいても体制や運用を見直し、有事の危機管理や再発防止の徹底に加えて、平時におけるリスク防止活動を強化しました。富士フィルムグループでは、富士フィルムホールディングス配下の全社を対象に、毎年グローバルベースで各社が抱えるリスクの抽出とそれに対するアクションプランの策定を以下のプロセスで実施しています。また、発生したクライシス案件に対しても、各事業会社で所定の手続きに従い、リスク管理を実施し、重要な案件については富士フィルムホールディングESG委員会事務局に報告し、グループ全体としてリスクマネジメントの監督と有効性の確認を担保しています。

#### リスクの抽出とアクションプラン策定のプロセス

